

♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.34



2020年4月20日発行
一般社団法人グリーンコープでんき

★社名変更！

「一般社団法人グリーン・市民電力」から

「一般社団法人グリーンコープでんき」へ。

2つの報告です！

★二酸化炭素排出係数ゼロを実現！

グリーンコープでんきは、温暖化の原因の一つ、CO2削減に貢献しています。

☀️新社名「一般社団法人グリーンコープでんき」
として生まれ変わりました！！

2011年3月11日東京電力福島第一原発事故を受けて、「自分たちの使う電気は、自分たちでつくろう」と、グリーンコープ各生協の総意の下、2012年10月、電気事業を担う組織として「一般社団法人グリーン・市民電力」を設立しました。以降、一つずつ着実に自然エネルギーの発電所を実現しています。合わせて、2016年から電気の小売事業にも取り組んでいます。

社名変更は、2020年4月1日からです。なお、(一社)グリーンコープでんきは、単なる電気事業者ではありません。チェルノブイリ原発事故以降から「原発をなくしたい」という組合員の思いを指針として、原発のない社会を実現していく事業体として、邁進していくことにします。

グリーンコープでんきは、原発はもちろん、化石燃料の発電所の電気は使っていません。

地球規模での気候変動、それによる温暖化が、今、大きな問題になっています。その原因が、温室効果ガスと呼ばれる二酸化炭素やフロン・メタンなどです。中でも約80%を占めるのが二酸化炭素(CO2)で、その排出量の削減は世界各国の課題でもあります。COP(気候変動枠組条約締約国会議)でその検討が行われています。

電気の分野も燃料の石油や石炭を使った発電所からは、多くのCO2を排出することによって問題となっています。放射能を排出する原発も問題であるとし、グリーンコープでんきは、「原発フリー」、そしてCO2排出係数ゼロを実現。自然環境に負荷をかけない電気であると自信をもって言うことができます。

※二酸化炭素排出係数データは、一電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)平成30年度実績(R2.1.7環境省・経済産業省公表)の掲載)

「原発フリー」の“グリーンコープでんき”。その「託送料金(電線使用料)」には、原発に使われる費用が含まれています。それはおかしいこと、問題であるとし、グリーンコープは「託送料金検討委員会」を立ち上げ検討してきました。そうした中、2020年4月から「賠償負担金」と「廃炉円滑化負担金」までもが、託送料金上乘せにされることになりました。

この間、その違法性を問うために訴訟に打って出ることに、組合員検討してきました。その最終決定をしたのが、先日(2月12日)のグリーンコープ共同体臨時社員総会でした。その議案書を2回に分けて掲載します。

託送料金訴訟決定の件

— vol.1 —

私たちは、「賠償負担金」と「廃炉円滑化負担金」が経済産業省令によって託送料金に上乘せされることの違法性に対して、国と大手電力会社を相手とする訴訟を行います。

訴訟を通して、大手電力会社と原発がどれほど不当に優遇されつづけ、今後もそれが国民負担のもとに続けられていくことになるかを明らかにします。

東京電力と国による福島第一原発事故への責任をより明確にし、その対処が適切に進むようにすることと、原発廃炉が適切に進んでいくこと、私たちに見えないようにされている原発が持つ問題をあらためて整理して、原発を本当に続けていくかについて、組合員や国民一人ひとりが考え、話し合っ、決めていける社会に向かうことのために、努力をかたむけていきます。

一. はじめに

(一) 私たちグリーンコープは、何よりも生命(いのち)そのものを大切にするという願いのもとに歩んできました。その立場から、知ることになった「託送料金」の問題について学習、話し合いを重ね、昨年6月の通常総会で、訴訟も辞さずにこの問題に取り組んでいくこと、その最終決定を本日開催する臨時総会で行うことを決議しました。

(二) この間、経済産業省と関西電力・中国電力・九州電力各社に「賠償負担金と廃炉円滑化負担金を託送料金に上乘せするのはおかしい。思い留まってほしい。」との要請を届け、九州電力を除く各位とはそれを議題とする説明と話し合いの場がもたれました。しかし、その願いは叶えられていません。これからもその要請の努力はつづけていきます。また、こうした問題があることについて、全国の

電力事業者にお伝えすることを始めています。今後、国会議員などへも同じことを試みたいと考えます。

(三) 一方、これを決めた経済産業省令が施行されるのは本年4月です。経済産業省が思い留まったり大手電力会社が徴収しないと決めない限り、賠償負担金や廃炉円滑化負担金の承認、申請、通知、認可等がなされた後に、両負担金の徴収が開始されることとなります。

(四) そのようになった時、私たち・グリーンコープは、私たちが設立したグリーン・市民電力が原告となって、国(経済産業省)と大手電力会社(九州電力)とを相手とする訴訟をそれぞれ起こすことについて、この間、調査と検討を詳細に進めてきました。

(五) その判断について、本日の臨時総会にて、代議員の皆さんでよく話し合っただけのよう、以下提案をいたします。

二、訴訟の内容は次のとおりです。

(一) 今回の2つの負担金を経済産業省令で託送料金に上乗せすることがどうして違法、不当と考えるかについての整理は次のとおりです。

(1) 電気事業法が省令に委任できる範囲を逸脱しています。5つの問題があります。

1) これを決めた有識者会議は、自分で“政策”を決めて、その“政策”に基づいて、その“政策”のための“制度”を作るという、おかしい議論をしています。

2) 議論にあたって、経済産業省は、この世に存在しない「一般負担金の過去分」なるものを捏造し、かつ、他に3点で議論を悪誘導し、錯誤させて、あってはならない決定をもたらしています。

3) つくられた“制度”の前提とされた「一般負担金の過去分」という考えは2016年の経済産業省によって捏造されたものです。

4) 賠償負担金額の算定が根拠をもっていないこと、そして廃炉円滑化負担金額は白紙委任の状態では幾らになるか目処も立たないことがあります。

5) 2016年9月に有識者会議の設置から今日まで、電気料金・託送料金の最大原則である「透明・公平・公正」が損なわれ続けてきたこと。

(2) 東京電力福島第一原発事故の対処に関する法律体系が振り曲げられます。事故の賠償が終わってないのに終わったものとされるような時がもたらされるかもしれません。また、どんな施設も事業者がその廃棄に責任を持つのが社会のルールですが、六年前から、原発廃炉についてだけ、法律に一切よらず特殊な事業者優遇の措置が始まりました。廃炉する原発施設や使わなくなった核燃料を

資産と扱って、その費用を料金から徴収するというものです。廃炉円滑化負担金はそれを既成事実化するものです。そんなことを止めないと大変なことになります。

(3) 原発の真のコストと負担がどうなっているかは今でも闇の部分が増えています。それを更に助長することになります。そもそもの電気料金と託送料金にもたくさんの疑問があります。原発を優遇して実は国民負担にさせているコストを明らかにせず、「原発は安価だから国民生活になくってはならない」といった喧伝(けんでん)を止めさせないといけません。

経済産業省令で2つの負担金を託送料金に上乗せすることを決めて、それで済ませていくことは、原発の真のコストと、そのコストを誰がどう負担しているのか、国民は実は原発にどれだけの負担を持たされているかといったことを、さらにまた分からなくさせてしまいます。それによって、電気事業法第18条が歪められ、最大原則である電気料金・託送料金の「透明・公平・公正」が損なわれます

(4) こうしたことの積み重ねが、当たり前の社会を損なっていくことになります。私たちは、こうした透明・公平・公正でないことをおかしいと考え、それに立ち向かっていき、子どもたちにそう言えるようにしたいと思います。

責任を取るべき者が責任を取らず、不公正がまかり通ることになります。透明、公平、公正な電気料金と託送料金が、国民の願いです。情報公開がされ、民主主義が実体化することが必要です。そして、生命と暮らしを脅かす原発は必要なのかについて、国民皆で判断できるようにする必要があります。(次号に続く)

■グリーンコープでんき

- 3月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め、下表のとおりです。

生協名	GC事業所 契約件数	組合員 契約件数	契約容量 (kW)
GC生協おおさか	8	51	251
GC生協ひょうご	10	26	176
GC生協とっとり	2	39	185
GC生協(島根)	1	83	360
GC生協おかやま	6	81	362
GC生協ひろしま	9	105	507
GCやまぐち生協	5	532	2,251
GC生協ふくおか	101	1,882	8,350
GC生協さが	17	108	657
GC生協(長崎)	11	155	714
GC生協くまもと	38	505	2,672
GC生協おおいた	17	273	1,213
GC生協みやざき	2	133	559
GCかごしま生協	13	203	940
単協計	240	4,176	19,197
【社】グリーンコープでんき【西田】	43		299
【社】グリーンコープでんき【高田】	62		4,493
総合計	345	4,176	23,989

■3月の電源構成

【関西電力エリア】

- 神戸市環境局西クリーンセンター
(燃料：一般ごみ) … 100%

【中国電力エリア】

- 敦賀グリーンパワー
(燃料：バイオマス) … 100%

【九州電力エリア】

- 敦賀グリーンパワー
(燃料：バイオマス) … 97.5%
- 馬洗瀬小水力発電所 … 0.5%
- 杖立温泉熱バイナリー発電所 … 1.1%
- 家庭用太陽光発電(卒FIT) … 0.8%

- ※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。
- ※グリーンコープでんきの電源には、原発の電気と化石燃料発電所の電気は一切含まれていません。

■家庭用太陽光発電余剰電力買取受付中!

- 現在九州エリアでの買取展開中です。中国・関西エリアについては取り組み準備中です。しばらくお待ちください。
- 買い取った余剰電力は、グリーンコープでんきの電源として組み込まれ、組合員の家庭へ届けられます。



■市民発電所

- (一社)グリーンコープでんきの各発電所の2020年1月までの累計実績です。出力抑制は、1月2日(神在)、4日(深年)の2日間でした。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	966,240	38,649,600
平池水上太陽光発電所	1,260	1,355,791	48,808,489
深年太陽光発電所	1,550	1,476,691	80,325,618
若宮物流センター	47	38,514	1,425,018
広島物流センター	47	44,741	1,655,417
やまぐち西部地域本部	54	52,177	1,721,841
グリーン未来ソーラー(10箇所)	244	358,940	7,537,740
合計	4,259	4,293,095	180,123,723

◆グリーン電力出資金

- 皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億3,441万円になっています。
- 出資目標額(積立目標額)は、3月27日現在で、11億1,154万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	207	233	17,360,000
GC生協ひょうご	89	108	7,456,000
GC生協とっとり	133	146	10,660,000
GC生協(島根)	240	251	11,870,000
GC生協おかやま	147	164	13,270,000
GC生協ひろしま	667	781	78,717,000
GCやまぐち生協	575	666	42,680,000
GC生協ふくおか	5,382	6,239	527,226,000
GC生協さが	322	361	44,885,000
GC生協(長崎)	570	626	55,263,000
GC生協くまもと	1,467	1,663	124,774,000
GC生協おおいた	776	863	69,528,000
GC生協みやざき	291	327	28,805,000
GCかごしま生協	708	804	79,046,000
合計	11,574	13,232	1,111,540,000

- グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。
- 2020年3月末支出総額は8億4,881万円で、残高は8,563万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	934,441,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	85,630,779